



# 地域医療の未来と我々の役割

株式会社オールエフ 代表取締役社長 丸山次郎

まるやま・じろう 長野県生まれ。小学3年生のときに出会った3本足のトランジスタに感動し、真空管ラジオを作る。大学卒業後は、大手コンピューターメーカー研究所を経て、フリーの技術コンサルタントとして東南アジアを拠点に活躍。1993年、オールエフシステム研究所創業。

## 我々の技術者達は素直で柔軟な人達が多いからか、臨機応変で速い動きが取れます。

取材 福水託  
photo & text by Taku Fukumizu



震災直後から、移動診療車の提供や病院修復のお手伝いなど独自のクリニック支援活動を開始。

我々の会社は急に何か違うことを始めてもス〜っと違和感がなく馴染んじやう、柔軟な体質を持っています。

我々の技術者達は素直で柔軟な人達が多いからか、必要とあらば集中して臨機応変で速い動きが取れます。それが当社の特徴といえるかもしれません。

もともと技術屋としてのキッチリと計画的に物事を進めてゆく人が多くて、我々のような柔軟な思考体質のところは外部の会社から入ってくると、最初は戸惑ってしまう人もいます。しかし技術屋こそ、変化があつた時に違和感なく即座に対応する柔軟な体質は大切ですし、それがあつたからこそ先の3・11の大震災後の対応も当社は非常に早かつたのではないかと思います。

ユーザーの元にある蓄電池ユニットにしても、当社の中心ユーザーであるクリニックは計画停電の影響が大きいだろうというところで、計画停電発表の翌週には開発し、4月には納品を開始しています。また被災地での医療支援のために提供している移動診療車についても、震災報道から被災し流されてしまった医療施設があることは容易に想像できましたから、移動可能で自家発電装置を備えた診療車が必要だろうということで、震災の翌週には設計を始め4月には被災地で運用されています。

また大震災以降、仙台に「病院修復お手伝いセンター」を開設し、当社のスタッフを送り込み医療現場のサポートをしています。機材の貸出しはもちろんの事、被災した病院の片付けまでありとあらゆるも出来るだけ正常な状態を保てるべきと考へており、我々が今後開発する製品に関してはその考え方を加味しています。理想的にはどんな状態になつても、何かしらの方法で稼働させられる医療機器であるべきという考え方です。

例えば震災以降に販売を始めた蓄電池ユニットは、医療機関には絶対欠かせない電源を維持確保するためのものですし、更に秋に発表するX線CTは、一般電源喪失時にも稼働させられる機器として製品化する予定です。またX線室には、災害時の簡易避難場所として備蓄庫としての機能も盛り込んでいます。

平常時のクリニックは地域医療の身近な存在ですが、その地域に災害が発生した時には住民の皆さんを守る皆になるべき存在と考へています。そして我々は、その地域の皆ともいえるクリニックを成立させるための全てのもの、それは医療機器だけに留まらず、クリニック全体について考え携わつていく必要があると感じています。

我々はクリニックを新規に開院する際、の予算的負担を、これまでの数分の一に軽減する新規開院パッケージを用意しています。これは私なりに医師の方々に無用な負担つまりクリニック開院時の巨額な設備投資による初期負担を軽減して頂き、その分医療に集中頂くべきではなからうかと考へた結果のものです。

世界的にみても日本のクリニックの開業費用はベラボウに高いと思います。ですから、海外留学や海外での勤務経験があるグローバルスタンダードを知っている医師の方々などが、積極的に当社の提案を取り入れて頂いているように思います。

る事をサポートしていますが、これは我々のユーザーであるかどうかは関係なく実施しています。被災地では今のところ公民館や仮設の施設で医療活動の一部を再開している状況です。仮設住宅や避難生活では衛生面にも難があつたり、また体調を崩される方々も多いでしょうから、一刻も早い医療機関の復興を優先させるべきと感じています。先日我々の仙台店が開設となつた際には3日間で200人位の開業医の方々が見えられましたので、動きは出てきているようですし、また再建計画は除々に挙つてきているようですが、実際の再建には至っていないところが多く、もどかしさを感じています。

私達のユーザーは地域に根ざした中小の医療機関ですから、当社の現場スタッフの再建には至っていないところが多く、もどかしさを感じています。被災地では今のところ公民館や仮設の施設で医療活動の一部を再開している状況です。仮設住宅や避難生活では衛生面にも難があつたり、また体調を崩される方々も多いでしょうから、一刻も早い医療機関の復興を優先させるべきと感じています。先日我々の仙台店が開設となつた際には3日間で200人位の開業医の方々が見えられましたので、動きは出てきているようですし、また再建計画は除々に挙つてきているようですが、実際の再建には至っていないところが多く、もどかしさを感じています。

日本はあらゆる分野での高コストが世界的な競争力にマイナスを及ぼしていると言われますが、こと医療分野では開業というスタート時点からして高コストということなのです。我々は日本の医療業界にとつてみれば斬新な、しかしグローバルの視点で見れば当たり前のことを展開してきました。もともと我々がブレイクした市場はアメリカでしたから、アメリカの医師の方々とお付き合いが多いため、日本の医療業界の常識よりもアメリカの医療業界の考え方に近いのかもしれない。日本には、高い技術力、高度な医学、高い経済力があるにも関わらず、世界の医療機器シェアでみればたつた約7%という現状があります。日本の医療現場では未だに海外から輸入される機器も多い

フから送られてくる情報もリアルで速いものです。その現場スタッフからの情報をどうやって現実化するのか、それを考えるのが私の役割と心得ています。我々オールエフは1993年に創業、1997年に口腔内カメラを発表し医療分野に参入しました。最初に製品化した口腔内カメラはその当時他には無かつた小型ワイヤレスタイプで、しかも圧倒的に安価でした。最初からアメリカ市場を中心に考へていましたが、ブレイクするきっかけはCRAレポートという医療機器を評価する公的レポートで高い評価を受けたからでした。このレポートをきっかけに製品のアドバンテージが知られるようになり多くのユーザーを獲得することになりました。その後も歯科製品はもちろんカプセル内視鏡や他の医科製品などを拡充して

のが実情です。しかし我々としては、何とかメイドインジャパンとして高く評価されるような医療機器を世界に向けて作つてゆきたいと考へています。超高齢化社会となる日本の地域医療の未来像を考へた時、またそれ以上に、未来の子供たちのためにも我々は地域医療の現場としてのクリニックの在り方と役割を強化サポートし、同時にグローバルスタンダードに近い医療制度を実現化するためのあらゆるコンテンツを提供しプロデュースしてゆきたいと考へています。またこれからのクリニックは、地域医療の現場であると同時に災害時の拠点でありえる存在、そのための総合的なサポートこそ、我々の社会的使命と考へています。(談)

・デジタルレントゲン NAOMI  
撮ってすぐパソコンモニターで確認できる、デジタルカメラのようなレントゲンセンサー。

・次世代カプセル内視鏡 Sayaka  
同社が発表した、次世代カプセル内視鏡。カメラが回転しながら消化管を接写撮影する。

・口腔内カメラ EINSTEIN lumica  
スリムなボディと、タッチセンサーが印象的。口腔内カメラをきっかけに、医療分野に参入する。